



写真の中には、何が写っているかな？
ここはどこだろう？ 誰が何をしているのかな？



これは、どこでとられた写真だろう。
見たことがあるロゴはないかな？

なぜルワンダにいるの？

2022年8月から、JICA 海外協力隊・理科教育隊員として、ルワンダで暮らしています。

きっかけは、高校生の時に、JICA 専門家としてアフガニスタンの理科教育の改善に従事されていた先生との出会いです。「ペットボトルでろ過装置が作れる。これで泥水をきれいにできる。」と教えていただきました。

アフガニスタンで生まれた同い年の子は「日本では捨てるようなもの」を使って、安全な水を手に入れる方法を学んでいること、生きるために理科の勉強をしていることを知り、衝撃を受けました。私の通っていた高校は、スーパーサイエンスハイスクール指定校で、物理・化学・生物・地学の実験室があり、「実験を通して理科を学ぶ」ことは当たり前前にできる環境だったのです。育った環境は変えられずとも、「恵まれた環境で育った自分だからこそできること」をやってみたいと思い、JICA 海外協力隊に参加することにしました。

JICA 海外協力隊って何をする人なの？

2023年5月15日現在、この国では43名の隊員が、主に農業開発、社会サービスの向上、成長と雇用創出を支える人材育成の3分野で活動しています。私は人材育成分野の中に位置づけられている、実験・観察を取り入れた理科授業の支援・推進に従事しています。寄宿生と自宅生合わせて184名が通う私立中高等学校で、12名の先生と一緒に教えています。

校長先生から、「空き教室を理科室として使っていていいよ」と言っていただき、実験器具や薬品の整頓・管理、安全に実験するための規則づくりから始めました。中学1～3年生の物理・生物・化学実験のアドバイザーをしています。

実験室に水道はなく（そもそも校内に蛇口は1つしかありません）、教科書も実験器具も一人ひとつはありません。左の写真は、手作り理科室で、3台しかない顕微鏡を35人で効率よく使っている様子です。白衣を着ている彼は、「理論だけでなく、本物を見せてあげたい」と、とても熱心な先生です。今までぶっつけ本番で授業をしていた彼ですが、予備実験をしてから授業に臨むようになりました。先生の隠れた努力で、生徒たちは「わかった！おもしろい！」「こうやったらどうなるの？」とワクワクしながら勉強しています。

JICA では、海外協力隊を派遣する以外の支援も行っています。右の写真は、首都から100kmほど離れた、私が住む町で撮影されました。看板の右上に JICA のロゴマークがありますね。「(写真の左下に見える)道路は、JICA の資金援助により作られました。」と書いていました。日本から遠く遠く離れた町ですが、「日本から来ました」と自己紹介すると、「日本ありがとう。」「JICA 知ってる！」「この道路のおかげで、マーケットへ行く道が快適になったよ。乾季でも、土埃が舞い上がらないんだ！」と笑顔で返してもらえます。「日本に生まれてよかったな」と思う瞬間です。

【次回予告】ルワンダは、何で有名ですか？